

人工知能によるデータ分析で牛の行動を モニタリング U-motion® (ユーモーション)

デザミス株式会社

経営企画室 広報企画チーム 鎌倉知紗

開発の経緯

畜産経営において、牛を一頭一頭注意深く観察することは非常に重要であり、これまで「牛を観察する目」は長い時間をかけて知識や経験からしか体得することのできない技術でもあった。しかし現在、日本国内では乳用牛・肉用牛合わせて約380万頭の牛が飼養されている。高齢化や後継者不足などの要因で統廃合を決断する小規模農家も多く、飼養戸数が減少しているため、一戸あたりの飼養頭数は増加傾向にある。したがって、個別の農場では労働力の確保が課題となり、牛の飼養管理そのものだけでなく採用活動や労務管理、技術的教育など多岐にわたる業務を限られた人数で分担する必要がある。こうした状況下では、牛を注意深く観察するために十分な時間を確保することは難しい。



写真1

表1

	肢装着	首装着	U-motion®
姿勢	○	×	○
反芻	×	○	○
採食	×	△	○
歩行	○	△	○
飲水	×	×	○

弊社が開発した牛の行動モニタリングシステム「U-motion® (ユーモーション)」は、畜産農家の抱える課題をテクノロジーで解決し、より効率的な農場経営をサポートしたいという想いから開発されたサービスだ。

製品・サービスの特長、優位性

1) センサ

U-motion®は、センサタグを牛の首に装着するタイプ(写真1)で、従来製品とは異なり、加速度センサと併せて気圧センサを組み込み、さらに近接センサも併用することで、反芻や動態のみならず採食や飲水と同時に姿勢(起立・横臥)を同時に測定することができる(表1)。首に装着したセンサタグに内蔵されている加速度センサの